



第17回

# スポーツイベントと持続可能性

SUSPON代表、NPO iPledge(アイプレッジ)代表 羽仁 カンタ

## 東京2020大会の“レガシー”を未来につなげる 目先の結果にこだわらず、持続可能な社会の懸け橋に

2020年の東京五輪・パラリンピック(東京2020大会)の開催が目前に迫ってきました。新型コロナウイルスの感染拡大を受け、影響が心配されましたが、国際オリンピック委員会(IOC)のバッハ会長は、3月初旬の理事会後の記者会見で「中止や延期という話は出なかった」と発言しています。

私たち「持続可能なスポーツイベントを実現するNGO/NPOネットワーク」(SUSPON)は立ち上げから4年が経ちました。現在23団体(表1)が参加し、「ごみゼロ」、「生物多様性」、「責任ある調達」、「エネルギー」、「ボランティア」、「平和とスポーツ」、「SUSPON Youth」という7つの部会(表2)でそれぞれ活動の輪を広げています。

SUSPONは、リユース食器の導入促進活動を行なっている仲間と2014年、東京2020大会にもリユースカップを導入したいと話したこときっかけにできたネットワークでした。

環境問題の国際会議などと比べて、五輪は圧倒的に多くの注目を集め、専門家だけでなく、一般の人たちも多くの関わるイベントです。2013年

9月のIOC総会で東京での開催が決まったとき、競技会場や選手村などの新施設が建設されたり、地域がホストタウンのような形で海外選手団を受け入れたりしていく中で、社会が変わっていくのではないかという期待が、社会全体からわき出していました。

そのような中、NGO/NPOが市民の目線で持続可能性に焦点を当てて東京2020大会に関わっていけば、大会だけでなく、その先の社会も持続可能なものに変えていけるかもしれない。そんな思いを持った仲間がSUSPONに集いました。

### 東京2020大会とSUSPONの活動

活動は当初、過去の大会の環境対策を勉強するところから始まり、参加団体がお互いの活動や情報交換を行いながら、政策提言と実践活動を軸に展開してきました。

SUSPONは、東京2020大会組織委員会や東京都、企業などの大会関係者とステークホルダー会議を開催。持続可能性に配慮して大会の準備・運営を行うための方向性や目標、施策例を示す、組織委の「持続可能性



持続可能なスポーツイベントを実現する  
NGO/NPOネットワーク  
Sustainable Sport  
NGO and NPO Network

に配慮した運営計画」に対する提言として、フラットに意見交換できる場を度々設けることができました。

SUSPONの7つある部会では、木材やパーム油を中心に組織委の「持続可能性に配慮した調達コード」への提言、葛西三枚洲(東京都江戸川区)のラムサール登録を目指す活動、スタジアムへの電力契約の実態調査など、参加団体が積み上げてきた経験に基づき、地に足のついた提案・活動を行なってきました。

ごみゼロ部会では2018年11月、プラスチック製品メーカーと協働で、東京都調布市の味の素スタジアム(東京スタジアム)で開催されたリボビタンDチャレンジカップ2018ラグビー日本代表対ニュージーランド代表の試合で、リ

表1 SUSPON加盟23団体(2020年3月現在)

● NPO iPledge (アイプレッジ)	● グリーン連合
● I♡SKATEBOARD	● CSOネットワーク
● A SEED JAPAN	● 持続可能な社会をつくる元気ネット
● NPO法人インターナショナル世界平和の響き	● 水Do!ネットワーク
● NPO地域環境デザイン研究所 ecotone	● 認定NPO法人 スペースふう
● NPO法人ezorock	● 地球・人間環境フォーラム
● 國際環境NGO FoE Japan	● 日本自然保護協会 (NACS-J)
● 学生団体おりがみ	● 日本野鳥の会
● 環境パートナーシップ会議 (EPC)	● 热帯林行動ネットワーク (JATAN)
● 認定NPO法人 環境リレーションズ研究所	● V-SPORTS PROJECT
● Climate Youth Japan (CYJ)	● 立命館大学 Sustainable Week 実行委員会
● グリーン購入ネットワーク (GPN)	

ユースカップ導入の実証実験を行いました。この経験が東京2020大会で活きればと考えています。

また、全国で多くのイベントのボランティア活動をコーディネートしてきたNPOのリーダーを中心に構成されているボランティア部会では、そのノウハウをまとめた冊子「持続可能な未来をつくるボランティアのためのガイド」を発行するなど、ネットワークの強みを活かした活動を開発し、成果を上げています。

組織委の「持続可能性に配慮した運営計画」が策定されてからは、計画内容やその遂行状況をウォッチする一方、地方自治体やホストタウンにも目を向けるようになりました。海外の選手団を受け入れたり、東京2020大会を機に地域が抱える課題に取り組んだりして街を盛り上げようとする自治体に対して、SUSPONの参加団体のメンバーがそれぞれのノウハウを生かして勉強会を開催したり、イベントで講演したりしています。

## 未来を見据えて

一連の活動の中でSUSPONが重

視してきたのは、①市民が参加すること、②横のつながりを活かすこと、③対話の場をつくっていくことの3点でした。NPO/NGOだけでなく、東京都や組織委、専門家、企業の経験や知識を学び合って対等に議論できる場を作ることが重要と考えていたからです。

背景も、目的も、価値基準も異なる人たちがフラットな立場で話し合うのは、もちろん簡単なことではありません。しかし、世界が注目する“スポーツの祭典”だからこそ、様々な組織が同じ関心や期待のもとでつながることができ、そこに市民の視点を入れることで、日常生活や地域に結びついた議論をすることができたと思っています。

東京2020大会は、社会に影響をもたらす大きなきっかけになりますが、そこが“ゴール”ではありません。持続可能な大会であることはもちろん大切ですが、それまでのプロセスも含めた成果や課題をいかにして大会終了後のレガシー(遺産)にしていくかがとても重要です。

その点で、大会運営の結果や課題などを今後もしっかりと検討し、

表2 SUSPONの7つの部会

- ごみゼロ (廃棄物)
- 責任ある調達
- エネルギー
- 生物多様性
- ボランティア
- SUSPON Youth
- 平和とスポーツ

それを提言につなげていくことが、SUSPONの役割であると思っています。目先の結果だけにとらわれず、未来を見据えて真に持続可能な社会の実現に向かっていく。SUSPONのもとに集まったNGO/NPOが連携して力を合わせることの意義がそこにあると考えています。

東京2020大会を経験した様々な人たちが、意識や行動を変え、それが社会をより良い方向に向かわせる原動力となって、持続可能な社会につながっていくことを望んでいます。



2018年10月に始まった本連載も今回が最終回。ご愛読いただきました読者の皆様に感謝いたします。

E

